

異動教員の自律的な研修参加を促進する

足場かけ調節システムの開発に向けた調査及び検討

Investigation and examination for development of scaffolding adjustment system
for transfer junior high school teachers谷内祐樹* 杉谷賢一* 戸田真志*
Yuki Yachi* Kenichi Sugitani* Masashi Toda*

*熊本大学

*Kumamoto University

<あらまし> 教員にとって人事異動は資質向上を図る研修の機会と捉えられるが、異動経験そのものが心理的負荷をかけるという指摘がある。また、中学校においては授業研究等の実践的な研修が十分に行われていない状況も報告されている。これらを踏まえ本研究では、中学校教員による授業検討会の発話状況を分析して課題を抽出し、異動により赴任した中学校教員の自律的な研修参加を促進する足場かけ調節システムの開発を検討した。

<キーワード> 足場かけ、交流距離理論、異動教員

1. はじめに

教員には自律的に学ぶという主体的な姿勢が求められているが、授業研究等の実践的な研修が十分に行われた中学校は39.9%に留まる(国立教育政策研究所 2022)。また、異動経験を教員の資質向上の研修機会と捉える自治体もあるが、精神疾患で休職する教員の約45%が異動後2年というデータ(文部科学省 2013)もある。町支(2019)は初めて異動した教員が「弱みを見せられない」等の困難を経験していたと報告した。教員の異動が資質向上に好影響を与える一方、心理的負荷に繋がるとの指摘もある(文部科学省 2013)。

これらを踏まえ、異動教員の自律的な参加を促進する研修の在り方が必要となると考え、遠隔教育に着目する。距離のハンディを「プログラムの柔軟な構造」と「学習者－インストラクタ間の対話」で補い、学習者の自律性を促進する遠隔教育に学ぶべき点は多い。

鈴木・平岡(2021)は、ムーアの交流距離理論を踏まえ、「構造」と「対話」による足場かけの総量を調整することで、自律性の程度に応じた適切な足場かけの提供が可能となると示したが、本理論はコロナ禍の授業改善に適用した事例は散見されるものの、異動教員の研修に適用した先行研究は見当たらない。

本研究では、まず、異動教員の不足スキル抽出を目的に対面型研修での発話状況を分析した。次に、足場かけ調節システムの設計を試み、実践に向けた課題整理を目的とした。

2. 学習指導案の事前検討における異動教員の課題抽出

調査は第一筆者が勤務する国立大学附属中学校の教員24名(異動教員9名、配属教員15名)を対象とした。2023年5月に行われた約30分間の学習指導案の事前検討での会話を録音し、発言の回数と時間、発言意図を分析した。発言意図は発言意図カテゴリー(鈴木ほか2007)による分類を試みた(表1)。異動教員は配属教員と比較して、発言回数は平均13.86回、発言時間は平均5:12分少なかった。また、発言意図カテゴリーによる分類では、「同意」の割合が15.59%低く、「非同意」の割合が11.61%低かった。また、代案を「提起」する割合は7.71%低かった。

本結果を踏まえ、本研究では異動教員が他者の考えに対して、同意・非同意・提案するスキルを身に付ける研修コースを設計する。

表1 異動教員と配属教員の発話状況の比較

調査項目	異動 教員	配属 教員	平均	
平均発言回数(回)	5.67	19.53	14.33	
平均発言時間(分)	2:33	7:35	5:31	
による 分類 (%)	提起	13.45	21.16	18.27
	説明	35.57	35.24	35.37
	同意	9.75	25.34	19.49
	非同意	0.51	12.12	7.77
	質問	17.39	22.67	20.69
その他	15.40	4.38	8.51	

3. 足場かけ調節システムの開発検討

実施予定の研修コースでは、異動教員6名が学習指導案の事前検討において、他者の考えに対する同意・非同意・提案を表明するスキルの習得を目標として設定する。ビジネスチャットアプリ Slack による非同期・非対面のコースとし、対面型の事前検討前に実施する。足場かけ調節システムの開発に向けては、メリルのID第一原理を参照する。本原理は、構成主義に影響を受けたIDモデルや理論の共通方略をまとめたものであり、足場かけという「効果的な学習環境(鈴木・根本 2011)」実現の知見として適していると考えた。

足場かけ調節システムの概要を表2に示す。研修前に用意する足場かけ(構造)では、サポーター(配属教員1名が担当)が学習指導案に対する同意・非同意・提案を投稿し、デモンストレーションとして見せ、異動教員はそれを参考にしてタスクに取り組む。学習中に提供する足場かけ(対話)では、サポーターはタスクの取組状況を観察し、アドバイスやフィードバックをする。これらの足場かけはフェーズの進展に伴って徐々に外していく。

4. おわりに

本研究では、異動教員の自律的な研修参加を促進するため、対面型の事前検討の発話状況から明らかとなったスキルの習得に向けて、自律的な研修参加を促進する足場かけ調節シ

ステムの開発を試みた。実施予定の試作コースではフェーズIを実施する。この効果検証を踏まえ、本コースの実施を進めたい。

参考文献

- 国立教育政策研究所(2022) 全国学力・学習状況調査結果 <https://www.nier.go.jp/22chousakekkahoukoku/factsheet/middle.html> (参照日 2023.05.29)
- 町支大祐(2019) 中学校教員の異動後の困難に関する研究—初めての異動に着目して—。教師学研究, 22(1):37-45
- 文部科学省(2013) 教職員のメンタルヘルス対策について https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2013/03/29/1332655_03.pdf (参照日 2023. 05. 29)
- 鈴木克明, 平岡斉士(2021) ICTを活用した授業デザイン原則の提案—交流距離理論の足場かけ総量再解釈に基づいて—。名古屋高等教育研究, 21: 143-165
- 鈴木克明, 根本淳子(2011)教育設計についての三つの第一原理の誕生をめぐる。教育システム情報学会誌, 28(2):168-176
- 鈴木真理子, 永田智子, 西森年寿, 望月俊男, 中原淳, 笠井俊信(2007) Web ベース授業研究支援「eLESSER」プログラムの効果。日本教育工学会論文誌, 31(Suppl.):89-92

表2 足場かけ調節システムの概要

メリルのID第一原理	フェーズI (8月上旬予定)		フェーズII (9月中旬予定)		フェーズIII (9月下旬予定)	
	構造	対話	構造	対話	構造	対話
1. 現実に起こりそうな問題に挑戦する(Problem)	[第1日目] サポーターが同意・非同意・提案を投稿する。	なし	[第1日目] サポーターが同意点・非同意点を投稿する。	なし	なし	なし
2. すでに知っている知識を動員する(Activation)	[第1日目] 学習指導案を読み、同意・非同意・提案を1つずつ投稿する(タスク1)。	[第1日目] サポーターは全ての教員に対してコメントを投稿する。	[第1日目] 学習指導案を読み、同意・非同意・提案を2つ以上投稿する(タスク4)。	[第1日目] サポーターは書き込みのない教員にのみアドバイスを投稿する。	[第1日目] 学習指導案を読み、同意・非同意・提案を1つ以上投稿する(タスク7)。	なし
3. 例示がある(Tell me でなく Show me)	[第2日目] サポーターがタスク1に対するコメントを投稿する。	なし	なし	なし	なし	なし
4. 応用するチャンスがある(Let me)	[第2日目] 他者の投稿を読み、それに対するコメントを2つ以上投稿する(タスク2)。	[第2日目] サポーターは全ての教員に対してコメントを投稿する。	[第2日目] 他者の投稿を読み、それに対するコメントを1つ以上投稿する(タスク5)。	[第3日目] サポーターは書き込みのない教員にのみアドバイスを投稿する。	[第2日目] 他者の投稿を読み、それに対するコメントを1つ以上投稿する(タスク8)。	なし
5. 現場で活用し、振り返るチャンスがある(Integration)	[第3日目] 翌週の事前検討でのアクションプランを投稿する。(タスク3)	[第3日目] サポーターは全ての教員に対してコメントを投稿する。	[第3日目] 翌週の事前検討でのアクションプランを投稿する。(タスク6)	[第3日目] サポーターはアクションプランに対するコメントを推奨する。	[第3日目] 翌週の事前検討でのアクションプランを投稿する。(タスク9)	なし